

青梅市で新規就農

繁昌 知洋

繁昌農園 TOKYO

1990 東京都で生まれる ▶ 2012 大学卒業、都内百貨店青果部門に就職 ▶ 2014 立川市のなかざと農園にて研修 ▶ 2016 青梅市で新規就農



今回紹介するのは、青梅市で就農した繁昌知洋さん(27)。約10ヶ月が経とうとする今、あらめて農業を目指したきっかけから現在に至るまでの経緯、そして今後の夢についてお聞きしました。

農業を目指したきっかけは？

もともと自然や動植物に興味を持っていたので、地方の大学で生命科学の研究をしていたんです。だんだんと自然とともに持統できる仕事に就きたいと考えようになりました。

そこで、あえて東京で農業をはじめたら人と違うことができるのではないかと思い、東京での新規就農を目指しました。

就農までの道のりは？

都内で研修先を探していたところ、親戚を介して立川市のなかざと農園のことを知り、すぐ電話しました。その頃中里さんは研修生を受け入れているわけではなかったのですが、こころよく承諾してくれました。



研修では本当に試行錯誤していましたが、栽培技術だけでなく販売目標や栽培計画などの立て方を学ぶ機会を得られたことと、自分でも日々実践してこられた経験は、今でもとても役に立っています。

就農していかがですか？

最初はとにかくやることが多いんです。トラクター、軽トラ、耕運機の準備、実際に栽培計画をまとめたり…。ただ、その大変な日々こそ充実感を味わっています。

そして、やはり作物の成長や実際に実になっていく姿に感動しています！

多品目栽培をする上で、どうしても手間がかかることが多いのですが、苦労して育てた野菜をお客さまの食卓に提供できていることに日々喜びを感じています。

いま取り組んでいることは？

東京で農業をするメリットとして、旬の野菜をとれたてのまま都内のお客様に提供することができると考えてます。



また、お客様によって野菜のニーズも変わってくるので、約40品目100種の多品目栽培をしています。畑によって、向き不向きの野菜もあるので、就農初年はチャレンジ精神で色々栽培しています。

これからの目標や夢は？

せっかく東京で農業をはじめたので、新鮮な東京野菜をアピールしたいです。

都心からのアクセスも良好なので、収穫イベントや土づくり体験など、「食」の源である栽培の素晴らしさをもっと広めていきたいです。

そして、青梅に新規就農者を増やして、仲間とおしで共同出荷や共同イベントなどに取り組み、新規就農者で農業を盛り上げていきたいです。

日々畑の世話に追われるなかでも、前職の青果販売の経験をいかし、より東京の生活に野菜を取り入れることの楽しさと豊かさを伝えていく活動も欠かさない繁昌さん。これからの活動が楽しみです！

